

巻頭言



分かりやすい学会誌を目指して

—学会誌改善宣言—

山田 昭彦†



今年は情報処理学会の創立 30 周年にあたる。会員数は現在 32,000 人となり、その 3 割が研究者、7 割が技術者やコンピュータのユーザという構成になっている。学会誌もこの実態にマッチしたものに改善すべきとの提言が昨年の理事会に提出され、これを受けて学会誌編集委員会で具体化について検討を行ってきた。その骨子もまとまりつつあり、本号は通巻 301 号にあたるため、この場を借りて編集委員会として分かりやすい解説を重視した学会誌に改善していくことを宣言したい。

学会誌は 1960 年 7 月に創刊され、独創的論文を中心とする編集方針のもとにスタートし、10 年間は隔月刊であった。創立 10 周年の 1970 年から念願の月刊誌となり、解説・講座が拡充され特集にも取り組むようになった。1979 年には論文誌の分離にふみきり現在の学会誌の形態が確立した。分野別に 4 つの小委員会が設けられ、特集の企画も積極的に行うようになった。その後特集の内容も種々の専門分野に広がり会員構成も多様化し、学会誌が難しいという声があがるようになったため 1982 年に「第二情報処理」の検討も行われたが、時期尚早ということで見送りになった。一昨年より学会誌のあり方について再び見直そうということになり、改善の提言が板倉理事を委員長とする委員会でまとめられた。

編集委員会では改善策を検討するにあたって、提言をもとに次の 3 項目を改善の基本方針に設定した。

1. 学会誌としてのレベルおよび客観性を保ちながら、思い切り分かりやすい記述を追求する。
2. 先進的分野、または特定分野の横断的な解説記事を企画し、対象となる読者層を想定して編集を行う。
3. 時宜にあった会員に興味のあるテーマをよりタイムリに掲載する。

これらを具体化するために編集委員会では次のよう

なことを検討しており、一部はすでに実施し始めている。

まず、分かりやすい学会誌にするため、内容および編集方法を見直す。内容検討を十分に行い、対象となる読者層を明確にした上で、内容にあった著者に執筆をお願いする。特集号では基本原理を分かりやすく解説する記事を含めることにし、これについては専門のテクニカルライターの支援も検討する。また若手技術者や学生会員にも容易に理解出来る「講座」を強化し、学界の定説だけでなく技術革新の流れにあったテーマについて分かりやすい形で連載を行う。

つぎに、編集業務の進め方についても改善をはかり、小委員会中心にタイムリに企画・編集業務が進められるようにする。査読については、これまでの専門分野の編集委員に加えて他分野の編集委員も査読を行う二人査読制を採用し、専門外の人にも分かりやすい解説になるよう努力する。また会員の方々の意見を反映させるため、特集号では特集記事に関する意見を募り、後で「誌上討論会」を行うことも計画しているの、ぜひともご意見をお寄せいただきたい。

今年はすでに 12 月号まで企画が決定しており、全面的に新方式に移行するのは来年からになるが、その間も出来るだけタイムリな記事をもりこみ、また読みやすい解説になるよう努力していきたい。

昨年まで IEEE Computer Society の理事と magazine の編集委員を各 4 年務めたが、あちらの学会誌「COMPUTER」は flagship ということで関係者が非常に誇りにし、また大切にしており、編集委員と専任エディタが共同で改善にも大変な努力を続けている。われわれも「情報処理」をより読みやすく役に立つ学会誌になるよう情熱をもって改善に努力していきたい。先輩の方々のご指導、会員の皆さまの積極的な意見、ご協力をお願い申し上げます。

(平成 2 年 1 月 29 日)

† 本会理事 日本電気(株)